



## 『何なんw』

デビューシングルを作ろう、と思って作ったデビューシングル。

這首歌帶著"創作出道作品"的明確目的而寫下的。

どこを切っても、自分らしいと胸を張って言えるような曲にしたかった。

我希望能滿懷信心地讓大家覺得這首歌不論聽哪裡/怎麼聽，都是很"風"的作品。

だから、口癖をサビに持ってきて、大好きな90年代風R&Bサウンドで、自分の心地いい方言で、気持ちよく歌って、タイトルに草も生やした。w

所以在副歌部分用了嘴邊經常說的口頭禪，融入了我超愛的90年代風格的R&B編曲元素，用自己感到舒適親切的家鄉話很暢快地演唱，還在標題還種了草。(w是日文"笑"的略字，因其形狀是"草"的簡寫)

「何なん」縛りで考えようとした歌詞は、何ヶ月も寝かせたけど、ふと「誰しもの中に存在するハイヤーセルフが、ダメな自分に語りかける」というコンセプトが降ってきた。

本來想用"nan-nan"語調貫穿全篇歌詞，也為此思考了幾個月，驚覺其實我們每人都有另一個在上空的自己俯瞰著，告誡著我們的錯誤和失敗。

結果、これ以上考えられないようなデビューシングルになった。

結果，成了一張再好不過的出道單曲。

## 『もうええわ』

もしも「何なんw」がデビューシングルに出来なかったら、「もうええわ」でもええわと思えるくらい、思い入れの強いセカンドシングル。

當時想著如果不能以《何なんw（什麼嘛）》出道，拿《もうええわ（算了吧）》也是能“算”作出道單曲的，是我非常看重的第2張單曲作品。

ヒップホップに影響されたサウンドに乗せて、ちょっと汚くて、暗くて、ワルい世界観を表現できた。

嘻哈的節奏和編曲帶點邋遢，表現出痞壞的暗黑世界。

「俗世・執着からの解放」を裏テーマに、人生におけるあらゆるネガティブなエネルギーに「もうええわ」する、自由の歌。

以從世俗/執念中解放為副主題，希望聽者能面對生活中的負能量說"算了吧"，是一首謳歌自由的作品。

## 『優しさ』

「優しさ」は「強さ」。  
“溫柔”就是“堅強”。

「優しさ」って、最強。  
溫柔，其實是最強的。

人と接するうちに、そんなことを感じるようになった。  
在與人相處的過程中，我漸漸體會到了這一點。

冷たいピアノ、エモーショナルなストリングス、緊張感のあるビートにのせて全力で歌った、「優しさ」へのラブソング。  
這是一首獻給“溫柔”的情歌，搭配冷冽的鋼琴、充滿情感的弦樂，以及帶有緊張感的節奏，我用盡全力歌唱。

HELP EVER

## 『キリがないから』

スリリングなベースに、トラップ風のビートが絡む。  
緊張刺激的貝斯線與陷阱風格的節奏交織纏繞。

HURT NEVER

Yaffle氏のアレンジが冴え渡る、疾走感と高揚感にあふれたクールな楽曲。  
在 Yaffle 的精彩編曲下，這是一首充滿疾走感與高漲情緒的酷感作品。

要らんものを断ち切って、変化を恐れず、進化し続けることを誓った、決意の歌。  
這是一首宣誓斬斷多餘羈絆、不懼改變、不斷進化的決心之歌。

## 『罪の香り』

プログレ、ジャズ、ラテン、など色んな香りの漂うサウンドが圧倒的。罪への恐れを歌った楽曲。  
壓倒性的噪音中瀰漫著前衛搖滾、爵士、拉丁音樂等各式各樣的香氣。是歌唱了對罪惡的恐懼的樂曲。

アルバムで唯一、ホーンセクションが入っていることもあり、熱気や生感にあふれた、アツい仕上がりになっている。

這首是整張專輯中唯一加入銅管樂段的作品，因而格外洋溢著熱情與現場感，成就了極具張力的一曲。

### 『調子のっちゃって』

ジリジリと、徐々に盛り上がっていく。

一絲一縷地，逐漸升溫。

噛めば噛むほど味が出てくるスルメ曲！

越聽越有味道的“越嚼越香系”歌曲！

お笑いラブ（吉田有里香 ゆりやんレトリィバァ よりインスパイア）なタイトルからは想像できない、とにかくアダルトなムードの曲にしたかった。

雖然標題靈感來自搞笑的“戀愛喜劇”（致敬搞笑藝人Yuriyan），但我想創作一首完全出乎意料、充滿成熟氛圍的作品。

この自分への戒めのような曲を書いてからは、多分あまり調子にのってない。（と思いたい）

寫下這首彷彿是對自己警醒的歌之後，我大概……沒再那麼得意忘形了。（希望是這樣）

### 『特にない』

Lo-fiヒップホップの心地よさ、暖かさを意識した、アルバムの折り返し地点となる一曲。

這是一首承接整張專輯前後段落的中間曲，帶有 Lo-fi 嘻哈特有的舒適與溫暖。

日本語と英語のセクションが混在した歌詞で、「足るを知る」の精神を、淡々と、かつ切々と歌っている。（つもり）

歌詞中混合了日語與英語，淡然卻又真摯地唱出“知足常樂”的精神。（自認為是這樣）

### 『死ぬのがいいわ』

上京後、買い物帰りに「あなたとこのままおサラバするより死ぬのがいいわ～」というフレーズが降りてきた。

來到東京後的一天，購物歸途中，腦海中突然冒出了這樣一句話：「與其就這樣與你道別，不如去死算了～」

ずいぶん昭和な歌詞とメロディだなと思ったけど、それがイマっぽいトラップ風ビートと合わさったおかげで、絶妙にオモロい個性的な曲になって大満足！

虽然我也觉得这歌词和旋律颇有昭和味，但正因为它与当下感十足的陷阱风节奏结合，反而成就了一首既搞笑又充满个性的奇妙作品，让我相当满意！

### 『風よ』

自分のルーツの一つである、昭和歌謡を全面に押し出した一曲。Yaffle氏の現代解釈による、極カシンプルに削ぎ落とされたアレンジが、この曲の哀愁をよりいっそう引き立ててくれた。

這是一首充分展現我音樂根源之一——昭和歌謡風格的作品。在 Yaffle 的現代詮釋下，經過極度簡化與洗練的編曲，更加凸顯了這首歌所蘊含的哀愁。

神さまを、吹く風に重ね合わせて、導いて欲しいと願う祈りの歌。

將神明的存在寄託在吹拂而過的風中，祈求它能指引前路——這是一首禱告之歌。

### 『さよならべいべ』

上京するときの心情は、歌にしといたほうがいい。と言われた。自分でもそう思った。

有人對我說，把上京（赴東京發展）時的心情寫成歌會更好。我自己也覺得確實如此。

それがまさかの、こんなロックチューンになろうとは！自分でも思ってたかった。

但萬萬沒想到，居然變成了一首這樣的搖滾曲風！連我自己都沒料到。

アルバムの中で異彩を放っているリアルな上京ソング。

這是一首在整張專輯中格外搶眼、真實描繪上京心境的作品。

## 『帰ろう』

この曲を発表するまでは死ねない。

在發表這首歌之前，我是死也死不瞑目的。

この曲を発表するために日本語の曲を作ろう。

正是為了發表這首歌，我才下定決心去創作一首日語歌。

とまで思わせられた曲。

這首歌甚至讓我下定那樣的決心。

それまでデタラメな言語で曲を作っていた自分にとって、この曲のサビのメロディが日本語で降りてきたことが、日本語の曲を書きはじめのきっかけになった原点。

對過去一直用胡亂拼湊的“假語言”來寫歌的我來說，這首歌的副歌旋律以日語浮現在腦海的那一刻，成為了我開始用日語寫歌的原點。

「死ぬために、どう生きるか」人生を、帰り道に重ね合わせて、自問自答した。ファーストアルバムの締めくくりには、この曲以外には無い。

我一邊走在回家的路上，一邊自問自答——“為了迎接死亡，我要如何去活？”將人生與歸途重疊思索。作為第一張專輯的結尾，除了這首歌，別無選擇。

HURT NEVER